

#### 4. 各種指標

「患者調査(病院(奇数)票)」を用いて次の指標を求めた。

$$\begin{aligned} & \text{「入院患者平均入院日数」} \\ & = \frac{\text{入院患者延入院日数}}{\text{入院患者総数}} \end{aligned}$$

「患者調査(病院退院票)」を用いて次の指標を求めた。

$$\begin{aligned} & \text{「退院患者平均在院日数」} \\ & = \frac{\text{退院患者延在院日数}}{\text{退院患者総数}} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & \text{「退院患者死亡割合」} \\ & = \frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{退院患者総数}} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & \text{「特定在院期間死亡退院割合」} \\ & = \frac{\text{特定在院期間の死亡退院患者数}}{\text{退院患者総数}} \end{aligned}$$

「病院報告(従事者票)」を用いて次の指標を求めた。これは施設の値である。

$$\begin{aligned} & \text{「看護要員中の看護婦割合」} \\ & = \frac{\text{施設の看護婦数}}{\text{施設の看護要員数}} \end{aligned}$$

ここで「看護婦数」とは、保健婦(士)、助産婦、看護婦(士)の数である。「看護要員数」とは、「看護婦数」に准看護婦(士)、看護補助者の数を加えた数である。

「病院報告(従事者票)」および「医療施設静態調査」を用いて次の指標を求めた。これは一般病棟の値である。

$$\begin{aligned} & \text{「入院患者1人あたり看護要員数」} \\ & = \frac{\text{一般病棟配置の看護要員数}}{\text{一般病棟入院患者数}} \end{aligned}$$

またこれとは別に、看護職員配置状況の分類として、診療報酬上の看護の実施状況(新看護体系、基準看護等)を使用した。

### III. 結果

#### 1. 有害事象選択基準

「患者調査(病院(奇数)票)」個票および「患者調査(病院退院票)」個票に現れた副傷病について、それを有害事象とみなすか否かを判定するために作成した「有害事象選択基準」は表1のとおりである。作成にあたっては、ほぼ確実に有害事象と考えられるもののみ採択し、可能性はあるが曖昧さが残ると判断されたものは排除した。

この基準は副傷病名について、主傷病名と手術との関連を考慮して作成したものであるが、逆に、同じ副傷病名であっても主傷病名と手術との関連で有害事象の可能性が低い場合がある。そこで基準には除外規定を設けている。

手術の有無に関わらず副傷病名が有害事象の可能性が高いと判断されたものは、敗血症(6コード)、角結膜炎(1)、肺炎(12)、気管切開処置後障害(1)、処置後呼吸器障害(2)、薬剤による皮膚炎(2)、掻痒症(3)、褥瘡(1)、尿路感染(7)、産褥の合併症(3)、新生児の感染症(3)、症状・徴候で他に分類されないもの(2)、過剰投与・過失による誤った薬物の摂取・投与による薬物中毒(19)、放射線障害(1)、外科的・内科的ケアの合併症(39)に分類された。また、手術があった場合に有害事象の可能性が高いと判断されたものは、29コードであった。

#### 2. 有害事象保有率

診療報酬上の看護の実施状況別に有害事象保有率をみたものが表2である。有害事象保有率は概ね1%前後であった。

入院中の患者の有害事象保有率は、新看護

体系では「看護婦あたり患者数」が多くなるにつれて高くなっていった。退院患者についても、「手術なし」の患者では4対1看護料で若干低下するものの概ね類似の傾向があった。しかし、「手術あり」の患者では2対1の方が2.5対1より高いというように一定の傾向は認められなかった。基準看護等では特三・特二・特一類の方がそれ以外の基準や「基準なし」よりも有害事象保有率が高かった。

退院患者の生存・死亡別では死亡退院患者の方が有害事象保有率が高かった。死亡退院患者では、新看護体系で「看護婦あたり患者数」が多くなるにつれて有害事象保有率が高くなるという傾向があった。逆に、「手術なし」の生存退院患者では、新看護体系での「看護婦あたり患者数」が多くなるにつれて有害事象保有率が低くなっていった(表3)。

入院中の患者の調査日までの入院日数の平均についてみると、「平均在院日数30日以内」という規定がある新看護2対1、2.5対1、基準看護特三類(特三・特二の組合せを含む)では「有害事象あり」の方が平均入院日数が長い、それ以外の類別では逆であった(ただし3.5対1を除く)。また、「平均在院日数30日以内」という規定のある類別群の平均入院日数に比べ、それ以外の群の平均入院日数は数倍長かった(表4)。

退院患者平均在院日数は新看護4対1の「手術あり」群以外のすべての群で、「有害事象あり」の方が退院患者平均在院日数が長かった。ここでもやはり、新看護2対1、2.5対1、基準看護特三類の退院患者平均在院日数は、そのほかの類別より短かった(表5)。

このように「平均在院日数30日以内」という診療報酬上の縛りがある新看護2対1、2.5対1、基準看護特三類は、入院患者平均入院日数と退

院患者平均在院日数について他の類別とは一線を画している。そこで、「看護要員中の看護婦の割合」別にみた有害事象保有率をこの3類別についてみたのが表6である。入院中の患者ではどの類別でも、看護婦割合が高い方が有害事象保有率は低かった。退院患者については、「手術なし」の方は同様の傾向があったが、「手術あり」の方には一定の傾向はなかった。

### 3. 有害事象の有無と入院日数および診療点数

入院中の患者について主傷病を傷病中分類で分け、有効数1000以上の傷病について有害事象の有無別に平均入院日数をみたものが表7である。ほとんどの傷病は「有害事象あり」の方が入院日数の中央値が大きかったが、白血病、てんかん、腰痛症及び坐骨神経痛、腎不全の4傷病は逆転していた。このうち腎不全はマン・ホイットニーのUテストで有意差が認められた( $P<0.01$ )。

有害事象があった場合の点数増減を推計するため、傷病中分類別の1日あたり点数を、「社会医療診療行為別調査(平成7年6月審査分): 医科診療診療行為・傷病中分類・入院-総数」の「総点数」から「初診・再診」、「指導管理等」、及び「在宅医療」に係わる点数を減じ、「診療実日数」で除して算出した。これに「有害事象あり」の平均入院日数と「有害事象なし」の場合の平均入院日数の差を乗じて点数の増減を推計した。

「有害事象あり」の患者数が10人以上の31傷病でみると、そのうち21傷病が「有害事象あり」で点数増、10傷病が「有害事象あり」で点数減であった。平均入院日数で比較すると、点数増の21傷病中、平均入院日数が90日以上は9傷病であるのに対して、点数減の方は10傷病中8傷病まで平均入院日数が90日以上だった。見方を変えると、平均入院日数90日未満の方は、

点数減は14傷病中2傷病しかなかったが、平均入院日数90日以上の方は「有害事象あり」の方が点数が少ないものが17傷病中8傷病あった。

表8は個々のケースが入院していた病院の一般病棟の「入院患者1人あたり看護要員数」の値をそのケースに付与して、入院患者の有害事象の有無別に平均看護要員数を求めて比較したものである。「有害事象なし」の方が「患者あたり看護要員数」が多い傷病が多いが、Uテストで有意差( $P<0.05$ )のある傷病はなかった。

施設の「看護要員中の看護婦割合」で同様の集計を行ったところ、胃の悪性新生物、白血病、虚血性心疾患、胆石及び胆のう炎で有意差が認められ(Uテスト: $P<0.05$ )、「有害事象あり」の方が看護婦割合が低かった(表9)。

表10と表11は退院患者の在院日数について集計したものである。次項でみるように退院患者については、退院時の有害事象保有は転帰と強い関係を有すが、退院時の有害事象保有は入院中のそれとは持つ意味が異なることに注意して数値を読む必要がある。

#### 4. 退院時の患者の状況

退院時の状況を「死亡」、「帰宅」、「その他」に分類してみたものが表12である。新看護体系でみると、「手術あり」、「手術なし」とともに「看護婦あたり患者数」が多くなるほど死亡割合が高くなり、帰宅割合は低くなる傾向がみられる。ただし、「平均在院日数30日以内」の規定がある新看護2対1、2.5対1、基準看護特三類では、死亡割合は2.5対1、2対1、特三の順に高くなり、帰宅割合はその逆の順序であった。

在院期間別の死亡退院割合をみたものが表13である。在院期間が短い部分における死亡

退院割合は、新看護体系の看護料別で比較すると、「手術あり」の方は「看護婦あたり患者数」が多くなるにつれて死亡割合は一度低下してから再び上昇する傾向があった。ところが「手術なし」の群では、「看護婦あたり患者数」が少ない類別ほど死亡割合が高くなる傾向があった。

退院患者平均在院日数は、看護の実施状況、手術の有無に関わらず死亡退院患者の方が帰宅患者より長かった。また、死亡退院患者、帰宅患者ともに「看護婦あたり患者数」が多い類別ほど退院患者平均在院日数が長くなる傾向があった。新看護2対1、2.5対1、基準看護特三類の退院患者平均在院日数は他の類別に比べかなり短く、特に死亡退院患者においてその差が顕著であった(表14)。

退院患者死亡割合は、「手術あり」の患者では看護婦割合70%未満でもっとも高く、70-85%でいったん低下し、85%以上で再び上昇するというパターンであった。一方、「手術なし」の患者群では、新看護2対1と基準看護特三類では、看護婦割合が85%以上のところが退院患者死亡割合がもっとも高かった(表15)。

看護婦割合別の入院患者平均入院日数と退院患者平均在院日数は表16のとおりである。入院患者平均入院日数は、看護婦割合が高い方が短いという傾向があったが、退院患者平均在院日数は逆であった。

#### IV. 考察

今回作成した選択基準に依って選択した有害事象保有患者の割合は1%前後であった。これは他の文献にみられる数値よりかなり低い。この原因としてはまず調査の特性があげられる。

「患者調査」は入院患者については特定の日の状況を横断的に、退院患者については退院という時点の状況のみを扱っているからである。また、有害事象の有無の判断に使うことができた副傷病名が1つだけということも原因である。さらに、資料の性格上、個々の患者の詳しい入院中の経過を知ることはできないので、選択基準を厳しくしたことも大いに影響していると思われる。

しかし、入院患者における有害事象の発生状況について、全国的なデータによって分析したのは、恐らくわが国ではこれが初めてであろう。

入院患者の傷病別・有害事象有無別平均入院日数をみたところ、多くの傷病で「有害事象あり」の方が平均入院日数が長い傾向がみられた。「有害事象なし」の方が平均入院日数が長いという傷病には、長期入院患者が多い傷病が多かった。また、新看護2対1、2.5対1、基準看護特三類のような「平均在院日数30日以内」が要件の看護料をとっている病院は、急性期医療を行うという役割が大きいと推察できるが、このような病院では「有害事象あり」の入院患者の平均入院日数は「有害事象なし」の平均の2倍近くになることが明らかになった。加えて、退院患者のうち死亡者の有害事象保有率は、生存者のそれより高かった。

一方、有害事象保有率は「看護婦あたり患者数」が多くなるにつれて増加する傾向があった。また、新看護2対1、2.5対1、基準看護特三類では、「看護要員中の看護婦割合」が低い方が入院患者の有害事象保有率が高かった。

こうした分析の結果から、看護サービスの質が患者の健康回復に影響を及ぼし、有害事象発生が医療費増をもたらす、看護の充実によって不必要な医療費支出を軽減することができるということが示唆され、こういう点からも、この研究

の意義は大きい考える。

また、入院患者の平均入院日数および死亡退院患者の平均在院日数については、「平均在院日数30日以内」という要件を満たさなければならない新看護2対1、2.5対1、基準看護特三類の3つの看護料類別群とそれ以外の類別群で比較したところ、両群の間には予想以上に大きな格差があった。今後、看護サービスに関する研究を行うときには両群の扱いをはっきり区別しても良さそうと思われる。

## V. 結論

1. 有害事象保有率は「看護婦あたり患者数」が多くなるにつれて増加する傾向があった。
2. 「平均在院日数30日以内」が要件の新看護2対1、2.5対1、基準看護特三類では、「有害事象あり」の方が入院患者平均入院日数が長かったが、他の類別では逆だった。
3. 新看護2対1、2.5対1、基準看護特三類では、「看護要員中の看護婦割合」が低い方が入院患者の有害事象保有率が高かった。
4. 退院患者のうち死亡者の有害事象保有率は、生存者より高かった。
5. 主傷病別では、多くの傷病で「有害事象あり」の方が入院患者の入院日数が長い傾向がみられたが、平均入院日数が90日以上の傷病では、「有害事象なし」の方が「あり」よりも平均入院日数が長い傷病が約半数あった。
6. 新看護2対1、2.5対1、基準看護特三類の3つの看護料類別とそれ以外の看護料類別を比べると、入院患者平均入院日数においても死亡退院患者平均在院日数においても大きな格差があった。

表1. 有害事象選択基準

- ・副傷病名として現れたもののうち、主傷病名と手術の有無により判断し選択した
- ・傷病コードはICD-10である

## A. 手術の有無にかかわらず有害事象の可能性が高いと判断されたもの

敗血症

- A41.0 :黄色ブドウ球菌による敗血症
- A41.4 :嫌気性菌による敗血症
- A41.8 :その他の明示された敗血症
- A41.9 :敗血症, 詳細不明
- B37.7 :カンジダ性敗血症
- P36.9 :新生児の細菌性敗血症, 詳細不明
  - ✕主傷病が感染症・外傷・敗血症の症状(発熱など)のときは除外
  - ✕主傷病が詳細不明・部分不明のときは除外

角結膜炎

- B30.0 :アデノウイルスによる角結膜炎 (H19.2)

肺炎

- J12.9 :ウイルス肺炎, 詳細不明
- J15.1 :緑膿菌による肺炎
- J15.2 :ブドウ球菌による肺炎
- J15.7 :マイコプラズマ肺炎
- J15.9 :細菌性肺炎, 詳細不明
- J16.8 :その他の明示された感染病原体による肺炎
- J18.0 :気管支肺炎, 詳細不明
- J18.1 :大葉性肺炎, 詳細不明
- J18.2 :臥床<沈下>性肺炎, 詳細不明
- J18.8 :その他の肺炎, 病原体不詳
- J18.9 :肺炎, 詳細不明
- J69.0 :食物および吐物による肺臓炎
  - ✕主傷病が呼吸器疾患(喉頭以下)のときは除外

気管切開処置後障害

- J95.0 :気管切開による機能障害

処置後呼吸器障害

- J95.1 :胸部手術に続発する急性肺機能不全
- J95.8 :その他の処置後の呼吸器障害

薬剤による皮膚炎

- L27.0 :薬物および薬剤による全身の発疹
- L27.1 :薬物および薬剤による限局性の発疹

掻痒症

- L29.3 :肛門性器そう<掻>痒症, 詳細不明
- L29.8 :その他のそう<掻>痒症
- L29.9 :そう<掻>痒症, 詳細不明

褥瘡

- L89 :じょく<褥>瘡性潰瘍

尿路感染

- N30.0 :急性膀胱炎
- N30.2 :その他の慢性膀胱炎
- N30.4 :放射線膀胱炎
- N30.8 :その他の膀胱炎
- N30.9 :膀胱炎, 詳細不明
- N34.2 :その他の尿道炎
- N39.0 :尿路感染症, 部位不明
  - 膀胱炎, 尿道炎および尿道症候群, 尿路感染症のうち
  - ✕間質性膀胱炎は、自己免疫疾患が疑われるので除外

- ✖主傷病が部位不明・詳細不明の感染症や敗血症の場合は、尿路感染が先行している可能性があるので除外
- ✖主傷病が血尿・尿閉・尿失禁・発熱など、尿路感染の症状である場合は除外
- ✖主傷病が尿路系・男性性器系の感染症・炎症の場合、膀胱憩室・尿道粘膜脱・過長包皮・詳細不明の尿路系疾患の場合は除外
- ✖膀胱炎、尿道炎および尿道症候群については、主傷病が膀胱・前立腺・尿道の新生物の場合、結石の場合は、そのために炎症を起こしている可能性があるため除外

#### 産褥の合併症

- O85 :産じょく<褥>性敗血症
- O86.4 :分娩に続発する原因不明の発熱
  - ✖主傷病が感染症のときは除外
- O90.1 :産科的会陰創の離開

#### 新生児の感染症

- P38 :軽度出血を伴うまたは伴わない新生児の臍炎
- P39.1 :新生児結膜炎および涙のう<囊>炎
- P39.2 :胎児の羊水内感染症、他に分類されないもの
  - ✖主傷病が敗血症の症状のときは除外

#### 症状・徴候で他に分類されないもの

- R57.1 :循環血液量減少性ショック
- R95 :乳幼児突然死症候群

#### 過量投与・過失による誤った薬物の摂取・投与による薬物中毒

- T37.5 :抗ウイルス薬
- T38.0 :グルコ<糖質>コルチコイド類およびその合成類似薬
- T39.1 :4-アミノフェノール誘導体
- T40.2 :その他のオピオイド類<アヘン関連麻薬>
- T40.6 :その他および詳細不明の麻薬
- T40.7 :大麻 (誘導体)
- T40.8 :リゼルギド [LSD]
- T42.0 :ヒダントイン誘導体
- T42.4 :ベンゾジアゼピン類
- T42.7 :抗てんかん薬および鎮静・催眠薬、詳細不明
- T43.5 :その他および詳細不明の抗精神病薬および神経抑制薬
- T43.9 :向精神薬、詳細不明
- T45.1 :抗腫瘍薬および免疫抑制薬
- T45.4 :鉄剤およびその化合物
- T46.0 :強心配糖体および類似作用薬
- T48.6 :抗喘息薬、他に分類されないもの
- T49.5 :眼科用薬および製剤
- T50.5 :食欲減退薬
- T50.9 :その他および詳細不明の薬物、薬剤および生物学的製剤

#### 放射線障害

- T66 :放射線の作用、詳細不明

#### 外科的・内科的ケアの合併症

- T80.6 :その他の血清反応
- T81.0 :処置に合併する出血および血腫、他に分類されないもの
- T81.1 :処置中のまたはその結果によるショック、他に分類されないもの
- T81.2 :処置中の不慮の穿刺および裂傷<laceration>、他に分類されないもの
- T81.3 :手術創の離開、他に分類されないもの
- T81.4 :処置に続発する感染症、他に分類されないもの
- T81.8 :処置のその他の合併症、他に分類されないもの
- T81.9 :処置の詳細不明の合併症
- T82.0 :人工心臓弁の機械的合併症
- T82.1 :心臓電子器具の機械的合併症
- T82.4 :血管透析カテーテルの機械的合併症
- T82.5 :その他の心臓および血管の人工器具および挿入物の機械的合併症

- T82.7 :その他の心臓および血管の人工器具, 挿入物および移植片による感染症および炎症性反応  
 T82.8 :心臓および血管のプロステシス, 挿入物および移植片のその他の合併症  
 T82.9 :心臓および血管のプロステシス, 挿入物および移植片の詳細不明の合併症  
 T83.0 :尿路(留置)カテーテルの機械的合併症  
 T83.2 :尿路の移植片の機械的合併症  
 T83.3 :子宮内避妊器具の機械的合併症  
 T84.0 :体内関節プロステシスの機械的合併症  
 T84.3 :その他の骨の人工器具, 挿入物および移植片の機械的合併症  
 T84.5 :体内関節プロステシスによる感染症および炎症性反応  
 T85.0 :脳室頭蓋内(交通性)シャントの機械的合併症  
 T85.2 :眼内レンズの機械的合併症  
 T85.3 :その他の眼球プロステシス, 挿入物および移植片の機械的合併症  
 T85.6 :その他の明示された体内プロステシス, 挿入物および移植片の機械的合併症  
 T85.8 :体内プロステシス, 挿入物および移植片のその他の合併症  
 T85.9 :体内プロステシス, 挿入物および移植片の詳細不明の合併症  
 T86.0 :骨髄移植の拒絶反応  
 T86.1 :腎移植不全および拒絶反応  
 T86.4 :肝移植不全および拒絶反応  
 T86.8 :その他の移植臓器および組織の不全および拒絶反応  
 T86.9 :詳細不明の移植臓器および組織の不全および拒絶反応  
 T87.4 :切断端の感染症  
 T87.6 :切断端のその他および詳細不明の合併症  
 T88.2 :麻酔によるショック  
 T88.3 :麻酔による悪性高熱<体温>(症)  
 T88.6 :適正に投与された正しい薬物および薬剤の有害作用によるアナフィラキシーショック  
 T88.7 :薬物および薬剤の詳細不明の有害作用  
 T88.8 :外科的および内科的ケアのその他の明示された合併症, 他に分類されないもの

#### B. 手術患者の場合で有害事象の可能性が高いと判断されたもの

- A04.4 :その他の大腸菌性腸管感染症  
 A04.9 :細菌性腸管感染症, 詳細不明  
 A09 :感染症と推定される下痢および胃腸炎  
 A49.0 :ブドウ球菌感染症, 詳細不明  
 A49.1 :レンサ球菌感染症, 詳細不明  
 A49.8 :部位不明のその他の細菌感染症  
 A49.9 :細菌感染症, 詳細不明  
 A59.0 :尿路性器トリコモナス症  
 A87.9 :ウイルス(性)髄膜炎, 詳細不明  
 B00.4 :ヘルペスウイルス(性)脳炎(G 05.1)  
 B00.5 :ヘルペスウイルス(性)眼疾患  
 B01.9 :水痘, 合併症を伴わないもの  
 B37.0 :カンジダ性口内炎  
 B44.1 :その他の肺アスペルギルス症  
 B44.8 :その他の型のアスペルギルス症  
 B44.9 :アスペルギルス症, 詳細不明  
 G03.9 :髄膜炎, 詳細不明  
 G04.9 :脳炎, 脊髄炎および脳脊髄炎, 詳細不明  
 J86.9 :瘻(孔)を伴わない膿胸(症)  
 J96.0 :急性呼吸不全  
 K65.0 :急性腹膜炎  
 K65.8 :その他の腹膜炎  
 K65.9 :腹膜炎, 詳細不明  
 K75.9 :炎症性肝疾患, 詳細不明  
 L08.9 :皮膚および皮下組織の局所感染症, 詳細不明  
 R57.1 :循環血液量減少性ショック  
 R57.9 :ショック, 詳細不明  
 R58 :出血, 他に分類されないもの  
 R99 :その他の診断名不明および原因不明の死亡

表2. 看護料別 有害事象保有率

看護料		入院中の患者	退院患者		
			手術あり	手術なし	計
新看護体系	2対1看護料	0.85%	0.71%	0.90%	0.83%
	2.5対1看護料	1.01%	0.67%	0.96%	0.86%
	3対1看護料	1.32%	0.82%	1.03%	0.98%
	3.5対1看護料	1.39%	0.64%	1.06%	0.98%
	4対1看護料	1.51%	0.76%	0.98%	0.93%
基準看護等	特三類	1.38%	1.00%	0.82%	0.89%
	特三類・特二類	1.47%	0.76%	0.90%	0.86%
	特二類	1.42%	0.89%	1.26%	1.17%
	特一類 I	1.37%	0.95%	1.58%	1.44%
	特一類 II	1.15%	0.78%	1.27%	1.17%
	基本 I	0.49%	0.00%	1.40%	1.04%
	基本 II	0.77%	0.73%	0.46%	0.50%
	その他看護 実施していない	0.93% 0.97%	0.36% 0.23%	0.90% 0.32%	0.76% 0.29%

表3. 看護料別 手術有無別 生存死亡別 有害事象保有率 (退院患者)

看護料		手術あり		手術なし	
		生存	死亡	生存	死亡
新看護体系	2対1看護料	0.63%	4.47%	0.75%	3.03%
	2.5対1看護料	0.57%	5.44%	0.77%	3.99%
	3対1看護料	0.64%	7.18%	0.68%	5.46%
	3.5対1看護料	0.48%	6.90%	0.61%	6.90%
	4対1看護料	0.59%	6.57%	0.60%	5.80%
基準看護等	特三類	0.85%	7.14%	0.67%	2.98%
	特三類・特二類	0.59%	7.14%	0.74%	3.13%
	特二類	0.65%	10.00%	0.93%	5.80%
	特一類 I	0.98%	0.00%	1.06%	8.33%
	特一類 II	0.79%	(・)	0.47%	9.52%
	基本 I	0.00%	(-)	0.87%	15.38%
	基本 II	0.74%	(-)	0.16%	8.00%
	その他看護 実施していない	0.28% 0.23%	6.90% (・)	0.48% 0.33%	7.16% 0.00%

(・):有効数10未満, (-):有効数0



表4. 看護料別 有害事象有無別 平均入院日数 (入院中の患者)

看護料		有害事象		
		なし	あり	計
新看護体系	2対1看護料	74.5	125.6	74.9
	2.5対1看護料	74.9	138.0	75.5
	3対1看護料	540.0	345.2	537.4
	3.5対1看護料	395.9	453.4	396.7
	4対1看護料	294.3	270.9	293.9
基準看護等	特三類	58.9	142.9	60.1
	特三類・特二類	187.4	844.2	197.1
	特二類	565.6	346.0	562.5
	特一類Ⅰ	571.0	157.7	565.4
	特一類Ⅱ	602.5	133.3	597.1
	基本Ⅰ	240.8	(-)	239.8
	基本Ⅱ	338.1	(-)	338.9
	その他看護 実施していない	696.6	359.9	693.5
	873.3	560.2	870.2	

(-):有効数10未満

表5. 看護料別 手術有無別 有害事象有無別 平均在院日数 (退院患者)

看護料		手術あり			手術あり		
		有害事象			有害事象		
		なし	あり	計	なし	あり	計
新看護体系	2対1看護料	26.4	48.2	26.6	23.1	39.3	23.2
	2.5対1看護料	28.5	52.7	28.6	24.0	43.1	24.2
	3対1看護料	35.2	65.5	35.4	43.8	131.5	44.8
	3.5対1看護料	37.3	50.5	37.4	45.4	161.5	46.6
	4対1看護料	34.7	33.2	34.7	48.0	130.0	48.8
基準看護等	特三類	27.2	41.1	27.3	25.0	36.7	25.1
	特三類・特二類	33.0	171.5	34.1	32.4	145.4	33.5
	特二類	27.9	135.0	28.8	46.5	85.8	47.0
	特一類Ⅰ	34.4	(-)	35.0	49.0	196.0	51.3
	特一類Ⅱ	34.7	(-)	34.5	58.1	111.6	58.8
	基本Ⅰ	19.6	(-)	19.6	24.4	(-)	24.4
	基本Ⅱ	27.1	(-)	27.4	28.3	(-)	28.4
	その他看護 実施していない	21.9	(-)	21.9	51.4	163.1	52.4
	16.4	(-)	16.6	46.7	(-)	46.7	

(-):有効数10未満, (-):有効数0

表6. 看護料別 看護婦割合別 有害事象保有率

	看護料	看護婦割合			
		70%未満	70-85%	85%以上	計
入院中の患者	新看護2対1	1.09%	0.84%	0.77%	0.85%
	新看護2.5対1	1.15%	1.14%	0.64%	1.01%
	基準看護特三類	1.60%	1.30%	0.53%	1.38%
退院患者 (手術あり)	新看護2対1	0.73%	0.63%	0.79%	0.71%
	新看護2.5対1	0.64%	0.74%	0.61%	0.67%
	基準看護特三類	0.83%	0.52%	2.05%	1.00%
退院患者 (手術なし)	新看護2対1	0.94%	0.92%	0.84%	0.90%
	新看護2.5対1	0.95%	1.03%	0.86%	0.96%
	基準看護特三類	0.95%	0.42%	0.56%	0.82%

注)「看護婦割合」は当該施設の総看護要員に占める保健婦(士)・助産婦・看護婦(士)の割合

表7. 入院患者の有害事象有無別 入院日数

(1/2)

傷病中分類		有害事象		計	1日あたり 点数	「有害事象あり」の場 合の点数増の推計*
		なし	あり			
腸管感染症	平均値	21.9	107.9	22.7	1,684	144,849
	中央値	6.0	17.0	6.0		
		N=1376	N=13	N=1389		
ウイルス肝炎	平均値	78.1	758.3	79.4	1,920	
	中央値	22.0	297.5	22.0		
		N=2169	N=4	N=2173		
胃の悪性新生物	平均値	60.0	91.1	60.3	2,627	81,692
	中央値	28.0	48.0	28.0		
		N=7893	N=69	N=7962		
結腸の悪性新生物	平均値	63.4	247.9	64.6	2,559	472,070
	中央値	25.0	104.0	25.0		
		N=3766	N=23	N=3789		
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	平均値	67.1	122.4	67.5	2,461	136,071
	中央値	30.0	71.0	30.0		
		N=2305	N=17	N=2322		
肝及び肝内胆管の悪性新生物	平均値	45.8	63.6	45.9	2,478	44,105
	中央値	22.0	25.0	22.0		
		N=3519	N=14	N=3533		
気管、気管支及び肺の悪性新生物	平均値	58.7	97.0	58.8	2,212	84,715
	中央値	32.0	78.0	32.0		
		N=5704	N=11	N=5715		
乳房の悪性新生物	平均値	50.0	91.8	50.1	2,495	
	中央値	21.0	49.5	21.0		
		N=2345	N=6	N=2351		
子宮の悪性新生物	平均値	67.1	95.7	67.1	2,414	
	中央値	33.0	61.0	33.0		
		N=1730	N=3	N=1733		
悪性リンパ腫	平均値	86.3	129.9	87.0	2,858	124,614
	中央値	56.0	65.0	57.0		
		N=1870	N=32	N=1902		
白血病	平均値	105.2	86.8	104.3	3,842	△ 70,687
	中央値	60.5	58.5	60.0		
		N=1678	N=82	N=1760		
貧血	平均値	92.6	69.4	92.1	1,316	△ 30,530
	中央値	24.0	30.0	25.0		
		N=1239	N=27	N=1266		
糖尿病	平均値	142.5	200.8	143.0	1,566	91,320
	中央値	26.0	40.0	26.0		
		N=10918	N=98	N=11016		
パーキンソン病	平均値	369.8	315.4	367.4	1,232	△ 67,012
	中央値	103.0	139.0	105.0		
		N=2019	N=95	N=2114		
てんかん	平均値	1637.5	910.7	1630.7	1,093	△ 794,397
	中央値	117.0	59.0	114.0		
		N=1152	N=11	N=1163		
白内障	平均値	18.3	.	18.3	4,454	
	中央値	3.0	.	3.0		
		N=2764	.	N=2764		
高血圧性疾患	平均値	313.8	321.2	313.9	1,281	9,481
	中央値	41.0	64.5	42.0		
		N=4538	N=48	N=4586		
虚血性心疾患	平均値	132.5	171.7	132.9	2,619	102,674
	中央値	17.0	23.0	17.0		
		N=8294	N=81	N=8375		
くも膜下出血	平均値	268.1	310.4	268.8	2,007	84,912
	中央値	78.0	101.0	78.0		
		N=2446	N=38	N=2484		
脳内出血	平均値	294.8	293.6	294.7	1,361	△ 1,633
	中央値	83.0	120.0	84.0		
		N=7467	N=177	N=7644		

注)有効数1000未満の傷病, および傷病名に「その他の」が含まれる傷病を除く

\* = 1日あたり点数×平均在院日数の差 (ただし「あり」の患者数10人未満の場合は推計せず)

表7. 入院患者の有害事象有無別 入院日数

(2/2)

傷病中分類	有害事象		計	1日あたり 点数	「有害事象あり」の場 合の点数増の推計*
	なし	あり			
脳梗塞	平均値 中央値 N=24415	298.6 75.0 N=795	238.1 97.0 N=25210	296.7 75.0 N=25210	1,328 △ 80,339
肺炎	平均値 中央値 N=6462	47.8 14.0 N=67	98.2 29.0 N=6529	48.3 14.0 N=6529	2,237 112,739
慢性閉塞性肺疾患	平均値 中央値 N=1973	241.9 47.0 N=10	334.6 160.5 N=1983	242.4 47.0 N=1983	1,432 132,718
喘息	平均値 中央値 N=4964	121.0 8.0 N=8	79.8 25.0 N=4972	120.9 8.0 N=4972	1,650
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	平均値 中央値 N=4203	68.5 15.0 N=41	77.1 26.0 N=4244	68.5 16.0 N=4244	1,799 15,471
肝硬変（アルコール性のものを 除く）	平均値 中央値 N=2858	123.8 28.0 N=12	212.8 70.5 N=2870	124.2 28.0 N=2870	1,618 144,006
胆石症及び胆のう炎	平均値 中央値 N=3943	45.3 16.0 N=23	75.8 26.0 N=3966	45.5 16.0 N=3966	2,981 90,932
痔疾患	平均値 中央値 N=1301	78.3 20.0 N=11	71.8 44.0 N=1312	78.3 20.0 N=1312	1,914 △ 12,442
炎症性多発性関節障害	平均値 中央値 N=2920	233.8 50.0 N=39	283.7 62.0 N=2959	234.5 50.0 N=2959	1,311 65,407
関節症	平均値 中央値 N=3481	109.9 40.0 N=12	89.1 65.0 N=3493	109.8 40.0 N=3493	1,694 △ 35,239
脊椎障害（脊椎症を含む）	平均値 中央値 N=4017	136.4 36.0 N=19	282.8 69.0 N=4036	137.1 36.0 N=4036	1,407 205,921
椎間板障害	平均値 中央値 N=2746	46.1 21.0 N=2	58.0 58.0 N=2748	46.1 21.0 N=2748	1,313
腰痛症及び坐骨神経痛	平均値 中央値 N=1024	111.2 21.0 N=2	17.0 17.0 N=1026	111.0 21.0 N=1026	962
糸球体疾患及び腎尿管間質性 疾患	平均値 中央値 N=2168	83.5 21.0 N=20	113.2 26.0 N=2188	83.7 21.0 N=2188	1,667 49,495
腎不全	平均値 中央値 N=5934	296.6 56.0 N=74	126.4 26.5 N=6008	294.5 55.0 N=6008	2,486 △ 423,086
前立腺肥大（症）	平均値 中央値 N=1204	59.9 11.0 N=3	195.3 51.0 N=1207	60.2 11.0 N=1207	2,258
妊娠及び胎児発育に関連する障 害	平均値 中央値 N=1353	35.8 20.0 N=15	26.9 22.0 N=1368	35.7 20.0 N=1368	2,016 △ 17,941
骨折	平均値 中央値 N=18574	68.0 30.0 N=112	148.7 51.5 N=18686	68.5 30.0 N=18686	1,569 126,645
頭蓋内損傷及び内臓の損傷	平均値 中央値 N=2279	206.5 33.0 N=29	333.4 96.0 N=2308	208.1 34.0 N=2308	1,549 196,537

注)有効数1000未満の傷病、および傷病名に「その他の」が含まれる傷病を除く

\* = 1日あたり点数×平均在院日数の差（ただし「あり」の患者数10人未満の場合は推計せず）

表8. 入院患者の有害事象有無別 入院患者1人あたり病棟看護要員数

(1/2)

傷病中分類		有害事象		計
		なし	あり	
腸管感染症	平均値	0.574	0.517	0.574
	中央値	0.562	0.559	0.562
		N=1311	N=12	N=1323
ウイルス肝炎	平均値	0.565	0.598	0.565
	中央値	0.559	0.582	0.559
		N=2044	N=4	N=2048
胃の悪性新生物	平均値	0.584	0.558	0.583
	中央値	0.571	0.566	0.571
		N=7487	N=65	N=7552
結腸の悪性新生物	平均値	0.584	0.576	0.583
	中央値	0.570	0.574	0.570
		N=3579	N=23	N=3602
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	平均値	0.586	0.492	0.585
	中央値	0.572	0.552	0.572
		N=2210	N=17	N=2227
肝及び肝内胆管の悪性新生物	平均値	0.587	0.617	0.587
	中央値	0.569	0.602	0.570
		N=3311	N=14	N=3325
気管、気管支及び肺の悪性新生物	平均値	0.587	0.527	0.586
	中央値	0.567	0.554	0.567
		N=5428	N=11	N=5439
乳房の悪性新生物	平均値	0.592	0.509	0.592
	中央値	0.577	0.523	0.577
		N=2222	N=6	N=2228
子宮の悪性新生物	平均値	0.593	0.616	0.593
	中央値	0.570	0.603	0.570
		N=1655	N=3	N=1658
悪性リンパ腫	平均値	0.599	0.564	0.598
	中央値	0.575	0.556	0.575
		N=1784	N=29	N=1813
白血病	平均値	0.619	0.608	0.618
	中央値	0.585	0.587	0.585
		N=1585	N=80	N=1665
貧血	平均値	0.581	0.563	0.581
	中央値	0.570	0.547	0.567
		N=1171	N=25	N=1196
糖尿病	平均値	0.560	0.560	0.560
	中央値	0.555	0.548	0.555
		N=10173	N=95	N=10268
パーキンソン病	平均値	0.518	0.510	0.518
	中央値	0.531	0.516	0.530
		N=1887	N=93	N=1980
てんかん	平均値	0.605	0.554	0.604
	中央値	0.561	0.557	0.561
		N=1110	N=11	N=1121
白内障	平均値	0.588	.	0.588
	中央値	0.575	.	0.575
		N=2633	.	N=2633
高血圧性疾患	平均値	0.508	0.520	0.508
	中央値	0.523	0.542	0.523
		N=4211	N=43	N=4254
虚血性心疾患	平均値	0.583	0.548	0.583
	中央値	0.572	0.546	0.572
		N=7848	N=76	N=7924
くも膜下出血	平均値	0.575	0.544	0.575
	中央値	0.571	0.545	0.570
		N=2291	N=34	N=2325
脳内出血	平均値	0.531	0.510	0.531
	中央値	0.543	0.538	0.543
		N=6966	N=167	N=7133

注) 有効数1000未満の傷病、および傷病名に「その他の」が含まれる傷病を除く

表8. 入院患者の有害事象有無別 入院患者1人あたり病棟看護要員数

(2/2)

傷病中分類		有害事象		計
		なし	あり	
脳梗塞	平均値	0.515	0.511	0.515
	中央値	0.531	0.534	0.531
		N=22679	N=754	N=23433
肺炎	平均値	0.558	0.560	0.558
	中央値	0.555	0.554	0.555
		N=6120	N=60	N=6180
慢性閉塞性肺疾患	平均値	0.537	0.444	0.536
	中央値	0.542	0.452	0.542
		N=1859	N=9	N=1868
喘息	平均値	0.572	0.595	0.572
	中央値	0.561	0.590	0.561
		N=4656	N=7	N=4663
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	平均値	0.554	0.554	0.554
	中央値	0.555	0.548	0.555
		N=3966	N=36	N=4002
肝硬変（アルコール性のものを除く）	平均値	0.563	0.492	0.563
	中央値	0.559	0.563	0.559
		N=2689	N=12	N=2701
胆石症及び胆のう炎	平均値	0.577	0.544	0.577
	中央値	0.567	0.566	0.567
		N=3726	N=22	N=3748
膝疾患	平均値	0.569	0.520	0.568
	中央値	0.559	0.560	0.559
		N=1212	N=11	N=1223
炎症性多発性関節障害	平均値	0.537	0.541	0.537
	中央値	0.541	0.520	0.540
		N=2710	N=36	N=2746
関節症	平均値	0.549	0.637	0.549
	中央値	0.543	0.653	0.543
		N=3271	N=11	N=3282
脊椎障害（脊椎症を含む）	平均値	0.536	0.552	0.536
	中央値	0.540	0.538	0.540
		N=3723	N=19	N=3742
椎間板障害	平均値	0.553	0.604	0.553
	中央値	0.547	0.604	0.547
		N=2542	N=2	N=2544
腰痛症及び坐骨神経痛	平均値	0.539	1.088	0.539
	中央値	0.541	1.088	0.541
		N=939	N=1	N=940
糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	平均値	0.597	0.541	0.596
	中央値	0.577	0.557	0.577
		N=2036	N=19	N=2055
腎不全	平均値	0.566	0.584	0.566
	中央値	0.562	0.585	0.563
		N=5561	N=72	N=5633
前立腺肥大（症）	平均値	0.577	0.547	0.577
	中央値	0.562	0.508	0.562
		N=1138	N=3	N=1141
妊娠及び胎児発育に関連する障害	平均値	0.686	0.622	0.685
	中央値	0.637	0.618	0.637
		N=1299	N=14	N=1313
骨折	平均値	0.550	0.554	0.550
	中央値	0.550	0.557	0.550
		N=17362	N=103	N=17465
頭蓋内損傷及び内臓の損傷	平均値	0.572	0.552	0.572
	中央値	0.570	0.543	0.570
		N=2135	N=26	N=2161

注)有効数1000未満の傷病, および傷病名に「その他の」が含まれる傷病を除く

表9. 入院患者の有害事象有無別（正）看護婦割合

(1/2)

傷病中分類		有害事象		計
		なし	あり	
腸管感染症	平均値	56.2%	59.0%	56.3%
	中央値	58.4%	65.3%	58.4%
		N=1380	N=13	N=1393
ウイルス肝炎	平均値	60.6%	41.8%	60.6%
	中央値	66.0%	37.0%	66.0%
		N=2176	N=4	N=2180
胃の悪性新生物	平均値	67.0%	60.1%	66.9%
	中央値	73.2%	65.6%	73.1%
		N=7927	N=69	N=7996
結腸の悪性新生物	平均値	66.9%	56.4%	66.8%
	中央値	72.8%	56.8%	72.7%
		N=3777	N=23	N=3800
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	平均値	67.8%	58.7%	67.8%
	中央値	74.6%	65.9%	74.5%
		N=2317	N=17	N=2334
肝及び肝内胆管の悪性新生物	平均値	73.1%	66.1%	73.1%
	中央値	80.8%	69.9%	80.8%
		N=3531	N=14	N=3545
気管、気管支及び肺の悪性新生物	平均値	73.5%	71.7%	73.5%
	中央値	78.9%	82.7%	78.9%
		N=5721	N=11	N=5732
乳房の悪性新生物	平均値	74.2%	68.8%	74.2%
	中央値	80.5%	72.2%	80.5%
		N=2356	N=6	N=2362
子宮の悪性新生物	平均値	79.5%	89.2%	79.5%
	中央値	85.2%	87.6%	85.2%
		N=1734	N=3	N=1737
悪性リンパ腫	平均値	78.9%	77.3%	78.9%
	中央値	84.2%	79.2%	84.2%
		N=1880	N=32	N=1912
白血病	平均値	81.5%	80.3%	81.5%
	中央値	86.8%	81.9%	86.4%
		N=1689	N=82	N=1771
貧血	平均値	61.5%	66.6%	61.6%
	中央値	66.1%	68.9%	66.2%
		N=1249	N=26	N=1275
糖尿病	平均値	57.5%	54.5%	57.5%
	中央値	60.3%	59.3%	60.3%
		N=10972	N=99	N=11071
パーキンソン病	平均値	49.4%	52.1%	49.5%
	中央値	46.8%	50.0%	46.9%
		N=2028	N=95	N=2123
てんかん	平均値	59.9%	60.7%	59.9%
	中央値	58.4%	67.0%	58.8%
		N=1158	N=11	N=1169
白内障	平均値	71.4%	.	71.4%
	中央値	78.2%	.	78.2%
		N=2772	.	N=2772
高血圧性疾患	平均値	42.7%	44.8%	42.8%
	中央値	37.7%	40.4%	37.7%
		N=4559	N=47	N=4606
虚血性心疾患	平均値	63.2%	54.5%	63.1%
	中央値	68.5%	53.0%	68.4%
		N=8328	N=81	N=8409
くも膜下出血	平均値	57.8%	56.3%	57.8%
	中央値	60.8%	60.8%	60.8%
		N=2457	N=38	N=2495
脳内出血	平均値	51.1%	47.6%	51.1%
	中央値	48.3%	43.9%	48.3%
		N=7503	N=178	N=7681

注) 有効数1000未満の傷病, および傷病名に「その他の」が含まれる傷病を除く

表9. 入院患者の有害事象有無別（正）看護婦割合

(2/2)

傷病中分類		有害事象		計
		なし	あり	
脳梗塞	平均値	46.1%	46.5%	46.1%
	中央値	42.0%	43.6%	42.0%
		N=24522	N=798	N=25320
肺炎	平均値	55.6%	55.6%	55.6%
	中央値	58.3%	56.1%	58.3%
		N=6495	N=67	N=6562
慢性閉塞性肺疾患	平均値	55.8%	45.5%	55.8%
	中央値	59.5%	42.1%	59.2%
		N=1977	N=10	N=1987
喘息	平均値	61.2%	63.3%	61.2%
	中央値	66.4%	73.1%	66.4%
		N=4994	N=8	N=5002
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	平均値	53.1%	52.0%	53.1%
	中央値	54.6%	51.2%	54.5%
		N=4238	N=41	N=4279
肝硬変（アルコール性のものを除く）	平均値	59.4%	56.7%	59.4%
	中央値	64.2%	57.9%	64.1%
		N=2870	N=12	N=2882
胆石症及び胆のう炎	平均値	63.6%	54.0%	63.5%
	中央値	68.3%	59.6%	68.2%
		N=3956	N=23	N=3979
膝疾患	平均値	59.1%	54.5%	59.0%
	中央値	62.7%	42.7%	62.6%
		N=1308	N=11	N=1319
炎症性多発性関節障害	平均値	57.9%	54.4%	57.8%
	中央値	61.1%	54.6%	61.1%
		N=2929	N=39	N=2968
関節症	平均値	62.7%	52.6%	62.7%
	中央値	68.5%	54.7%	68.5%
		N=3487	N=12	N=3499
脊椎障害（脊椎症を含む）	平均値	54.7%	53.2%	54.7%
	中央値	55.6%	48.2%	55.6%
		N=4028	N=19	N=4047
椎間板障害	平均値	56.7%	49.9%	56.7%
	中央値	59.1%	49.9%	59.1%
		N=2759	N=2	N=2761
腰痛症及び坐骨神経痛	平均値	47.7%	62.7%	47.7%
	中央値	43.5%	62.7%	43.5%
		N=1029	N=2	N=1031
糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	平均値	67.9%	59.3%	67.8%
	中央値	75.3%	60.6%	75.1%
		N=2174	N=20	N=2194
腎不全	平均値	54.6%	60.0%	54.6%
	中央値	56.0%	67.9%	56.1%
		N=5965	N=74	N=6039
尿路結石症	平均値	65.7%	71.0%	65.7%
	中央値	72.3%	71.0%	72.0%
		N=1007	N=1	N=1008
前立腺肥大（症）	平均値	67.8%	54.5%	67.8%
	中央値	74.5%	49.4%	74.5%
		N=1205	N=3	N=1208
妊娠及び胎児発育に関連する障害	平均値	81.3%	81.4%	81.3%
	中央値	85.1%	87.8%	85.1%
		N=1359	N=15	N=1374
骨折	平均値	52.4%	53.2%	52.4%
	中央値	52.6%	51.8%	52.6%
		N=18670	N=112	N=18782
頭蓋内損傷及び内臓の損傷	平均値	57.4%	48.3%	57.3%
	中央値	60.7%	45.2%	60.5%
		N=2293	N=29	N=2322

注)有効数1000未満の傷病、および傷病名に「その他の」が含まれる傷病を除く



表10. 退院患者の有害事象有無別 退院時生存死亡別 在院日数

(1/3)

傷病中分類		有害事象なし			有害事象あり			1日あたり点数	「有害事象あり」の場合の点数増の推計*	
		退院時		計	退院時		計		生存	退院計
		生存	死亡		生存	死亡				
腸管感染症	平均値 中央値 N=12188	8.4 5.0	28.1 15.0	8.4 5.0	11.1 6.0	. .	11.1 6.0	1,684	4,548	4,548
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患	平均値 中央値 N=3259	14.1 8.0	102.0 28.0	14.3 8.0	19.6 7.0	36.5 36.5	20.6 7.0	2,132	11,725	13,430
ウイルス肝炎	平均値 中央値 N=3690	29.7 21.0	225.4 55.5	32.1 21.0	34.4 21.5	80.5 18.5	43.7 20.5	1,920	9,022	22,266
胃の悪性新生物	平均値 中央値 N=8239	40.1 33.0	63.8 41.0	44.7 34.0	45.3 37.0	137.2 57.0	81.5 43.0	2,627	13,659	96,664
結腸の悪性新生物	平均値 中央値 N=5088	30.4 24.0	75.0 41.0	36.3 26.0	54.8 35.0	52.3 26.0	54.1 31.5	2,559	62,431	45,544
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	平均値 中央値 N=2542	41.3 35.0	66.1 43.0	45.1 35.0	45.8 37.0	88.2 37.5	63.5 37.0	2,461	11,073	45,275
肝及び肝内胆管の悪性新生物	平均値 中央値 N=4344	33.1 23.0	57.2 30.0	38.3 24.0	29.3 26.0	44.3 40.0	34.6 29.0	2,478	△ 9,416	△ 9,168
気管、気管支及び肺の悪性新生物	平均値 中央値 N=5034	43.0 30.0	61.6 38.0	48.2 32.0	44.9 23.0	65.5 67.0	53.9 30.0	2,212	4,203	12,608
乳房の悪性新生物	平均値 中央値 N=3376	33.2 25.0	67.9 34.0	36.3 25.0	36.7 35.0	80.3 17.0	44.9 30.5	2,495	8,733	21,459
子宮の悪性新生物	平均値 中央値 N=2275	36.6 19.0	87.9 50.0	40.8 20.0	32.2 22.0	72.9 65.0	48.5 25.5	2,414	△ 10,623	18,590
悪性リンパ腫	平均値 中央値 N=1169	66.5 47.0	86.5 59.0	70.3 50.0	56.3 45.0	80.4 45.5	68.6 45.0	2,858	△ 29,153	△ 4,859
白血病	平均値 中央値 N=1110	61.1 29.0	106.7 69.0	70.4 33.0	50.4 33.5	126.8 70.0	80.9 38.0	3,842	△ 41,106	40,338
貧血	平均値 中央値 N=1950	25.4 13.0	78.4 26.5	27.7 14.0	56.6 29.0	173.0 112.0	69.9 32.0	1,316	41,058	55,533
甲状腺障害	平均値 中央値 N=1508	23.0 16.0	39.4 33.0	23.2 16.0	27.8 20.0	5.0 5.0	26.2 18.0	1,656	7,949	4,968
糖尿病	平均値 中央値 N=14696	38.4 23.0	137.3 58.0	40.1 24.0	47.3 29.0	78.2 31.0	53.2 29.0	1,566	13,941	20,520
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	平均値 中央値 N=1241	8.1 1.0	2.9 0.5	8.1 1.0	2.0 1.0	. .	2.0 1.0	918		
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	平均値 中央値 N=1325	37.5 7.0	280.7 309.0	38.1 7.0	9.2 4.5	. .	9.2 4.5	885		
パーキンソン病	平均値 中央値 N=1115	74.8 35.0	458.8 107.0	105.2 38.0	74.9 44.5	425.3 121.5	209.6 58.5	1,232	123	128,605
てんかん	平均値 中央値 N=1851	27.8 5.0	323.7 95.0	30.1 5.0	28.8 10.0	272.0 27.0	50.2 10.5	1,093	1,093	21,969
白内障	平均値 中央値 N=13501	10.7 8.0	73.0 73.0	10.7 8.0	13.1 9.0	. .	13.1 9.0	4,454	10,690	10,690

注)有効数1000未満の傷病, および傷病名に「その他の」が含まれる傷病を除く

\*=1日あたり点数×平均在院日数の差(ただし「あり」の患者数10人未満の場合は推計せず)

表10. 退院患者の有害事象有無別 退院時生存死亡別 在院日数

(2/3)

傷病中分類		有害事象なし			有害事象あり			1日あたり点数	「有害事象あり」の場合の点数増の推計*	
		退院時		計	退院時		計		生存	退院計
		生存	死亡		生存	死亡				
高血圧性疾患	平均値 中央値 N=5358	36.8 15.0	315.7 65.0	43.1 15.0 N=5482	28.1 18.0 N=42	444.8 59.5 N=6	80.2 20.0 N=48	1,281	△ 11,146	47,532
虚血性心疾患	平均値 中央値 N=18946	23.0 9.0	63.6 5.0 N=912	24.8 9.0 N=19858	31.2 23.0 N=75	156.4 30.0 N=46	78.8 27.0 N=121	2,619	21,478	141,438
くも膜下出血	平均値 中央値 N=1312	76.3 38.0	48.1 7.0 N=568	67.8 26.0 N=1880	107.2 57.5 N=16	76.7 38.5 N=24	88.9 39.0 N=40	2,007	62,028	42,356
脳内出血	平均値 中央値 N=3607	91.7 48.0	94.5 6.0 N=906	92.2 38.0 N=4513	81.1 42.0 N=63	178.1 87.5 N=58	127.6 54.0 N=121	1,361	△ 14,427	48,179
脳梗塞	平均値 中央値 N=17473	58.3 27.0	223.3 55.0 N=1983	75.1 28.0 N=19456	63.6 34.0 N=271	244.0 73.0 N=299	158.3 44.0 N=570	1,328	7,038	110,483
動脈硬化(症)	平均値 中央値 N=1132	33.9 18.0	118.0 52.0 N=49	37.4 19.0 N=1181	55.7 44.0 N=6	101.2 62.0 N=5	76.4 62.0 N=11	1,954		76,211
痔核	平均値 中央値 N=2516	14.0 11.0	. .	14.0 11.0 N=2516	15.4 13.0 N=7	59.0 59.0 N=1	20.9 15.5 N=8	1,518		
急性咽頭炎及び急性扁桃炎	平均値 中央値 N=3508	6.7 5.0	12.5 12.5 N=2	6.7 5.0 N=3510	7.5 7.0 N=32	. .	7.5 7.0 N=32	2,138	1,710	1,710
肺炎	平均値 中央値 N=14545	20.4 11.0	76.9 29.0 N=1607	26.0 11.0 N=16152	30.2 17.0 N=71	225.9 75.0 N=10	54.4 19.0 N=81	2,237	21,921	63,527
急性気管支炎及び急性細気管支炎	平均値 中央値 N=2406	11.3 6.0	51.8 31.0 N=14	11.5 6.0 N=2420	23.3 15.5 N=12	. .	23.3 15.5 N=12	1,467	17,609	17,316
慢性副鼻腔炎	平均値 中央値 N=1472	12.1 11.0	59.0 59.0 N=1	12.1 11.0 N=1473	11.8 11.0 N=5	. .	11.8 11.0 N=5	3,075		
急性又は慢性と明示されない気管支炎	平均値 中央値 N=1463	13.8 6.0	68.6 60.5 N=8	14.1 6.0 N=1471	15.6 9.0 N=10	58.0 58.0 N=1	19.5 11.0 N=11	1,136	2,044	6,132
慢性閉塞性肺疾患	平均値 中央値 N=2023	48.6 21.0	128.7 56.5 N=198	55.8 23.0 N=2221	56.0 28.0 N=3	31.2 15.0 N=5	40.5 21.5 N=8	1,432		
喘息	平均値 中央値 N=17468	12.7 5.0	207.4 30.0 N=124	14.1 5.0 N=17592	15.4 7.0 N=17	26.0 26.0 N=1	16.0 7.5 N=18	1,650	4,455	3,135
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	平均値 中央値 N=8260	24.7 17.0	88.2 27.0 N=157	25.9 17.0 N=8417	33.3 26.0 N=92	36.5 19.0 N=19	33.9 25.0 N=111	1,799	15,471	14,392
胃炎及び十二指腸炎	平均値 中央値 N=2149	13.9 7.0	211.1 59.0 N=12	15.0 7.0 N=2161	13.2 12.0 N=10	. .	13.2 12.0 N=10	1,231	△ 862	△ 2,215
アルコール性肝疾患	平均値 中央値 N=1214	28.6 21.0	18.5 8.0 N=27	28.4 21.0 N=1241	34.4 30.0 N=8	5.0 5.0 N=1	31.1 26.0 N=9	1,409		
慢性肝炎(アルコール性のものを除く)	平均値 中央値 N=1466	36.6 23.0	236.0 49.0 N=25	40.0 23.0 N=1491	28.0 21.5 N=6	133.3 122.0 N=3	63.1 28.0 N=9	1,367		
肝硬変(アルコール性のものを除く)	平均値 中央値 N=3202	50.8 27.0	62.3 30.0 N=493	52.3 27.0 N=3695	31.3 26.5 N=20	75.2 43.5 N=12	47.7 30.5 N=32	1,618	△ 31,552	△ 7,443
胆石症及び胆のう炎	平均値 中央値 N=8364	26.8 17.0	76.9 48.0 N=84	27.3 17.0 N=8448	36.9 25.0 N=54	35.7 24.0 N=11	36.7 24.0 N=65	2,981	30,112	28,025

注) 有効数1000未満の傷病, および傷病名に「その他の」が含まれる傷病を除く

\* = 1日あたり点数×平均在院日数の差 (ただし「あり」の患者数10人未満の場合は推計せず)

表10. 退院患者の有害事象有無別 退院時生存死亡別 在院日数

(3/3)

傷病中分類		有害事象なし			有害事象あり			1日あたり り点数	「有害事象あり」の場合 の点数増の推計*	
		退院時		計	退院時		計		生存	退院計
		生存	死亡		生存	死亡				
肺炎患	平均値 中央値 N=2614	26.1 16.0 N=2614	57.2 30.0 N=63	26.8 17.0 N=2677	43.7 35.0 N=18	51.2 41.0 N=5	45.3 36.0 N=23	1,914	33,688	35,411
皮膚及び皮下組織の感染症	平均値 中央値 N=2384	18.1 11.0 N=2384	24.5 12.0 N=13	18.1 11.0 N=2397	22.3 14.5 N=20	19.8 18.0 N=4	21.8 16.0 N=24	1,942	8,156	7,185
炎症性多発性関節障害	平均値 中央値 N=2557	62.7 32.0 N=2557	371.3 84.5 N=42	67.7 32.0 N=2599	61.2 35.5 N=18	632.0 157.0 N=7	221.0 57.0 N=25	1,311	△ 1,966	200,940
関節症	平均値 中央値 N=2926	73.4 55.0 N=2926	75.7 93.0 N=9	73.4 55.0 N=2935	90.0 71.0 N=10	108.0 108.0 N=1	91.6 79.0 N=11	1,694	28,124	30,834
脊椎障害(脊椎症を含む)	平均値 中央値 N=4484	46.9 31.0 N=4484	188.3 70.0 N=43	48.2 31.0 N=4527	81.4 44.0 N=10	213.5 213.5 N=2	103.4 47.0 N=12	1,407	48,527	77,643
椎間板障害	平均値 中央値 N=4816	34.3 26.0 N=4816	. . N=9	34.3 26.0 N=4816	68.4 48.0 N=9	. . N=9	68.4 48.0 N=9	1,313		
腰痛症及び坐骨神経痛	平均値 中央値 N=1752	29.6 16.0 N=1752	522.0 165.0 N=5	31.0 16.0 N=1757	45.7 58.0 N=3	. . N=3	45.7 58.0 N=3	962		
糸球体疾患及び腎尿管細管間質性疾患	平均値 中央値 N=4757	23.4 11.0 N=4757	93.0 43.0 N=65	24.3 11.0 N=4822	19.5 16.0 N=53	810.1 42.0 N=7	111.7 17.0 N=60	1,667	△ 6,499	145,653
腎不全	平均値 中央値 N=4835	53.3 24.0 N=4835	138.4 46.0 N=700	64.1 25.0 N=5535	31.7 15.0 N=164	106.5 47.0 N=47	48.3 17.0 N=211	2,486	△ 53,694	△ 39,276
尿路結石症	平均値 中央値 N=7314	8.3 5.0 N=7314	75.5 78.0 N=4	8.3 5.0 N=7318	19.0 15.0 N=7	. . N=7	19.0 15.0 N=7	3,060		
前立腺肥大(症)	平均値 中央値 N=2737	28.6 16.0 N=2737	171.0 26.5 N=16	29.4 16.0 N=2753	18.7 13.0 N=6	. . N=6	18.7 13.0 N=6	2,258		
流産	平均値 中央値 N=3790	3.6 1.0 N=3790	8.0 8.0 N=2	3.6 1.0 N=3792	5.5 3.0 N=6	. . N=6	5.5 3.0 N=6	2,347		
妊娠中毒症	平均値 中央値 N=1308	13.1 10.0 N=1308	16.0 16.0 N=1	13.2 10.0 N=1309	16.8 16.0 N=5	. . N=5	16.8 16.0 N=5	1,829		
妊娠及び胎児発育に関連する障害	平均値 中央値 N=2600	28.6 17.0 N=2600	18.3 2.0 N=55	28.4 17.0 N=2655	37.5 27.5 N=32	. . N=32	37.5 27.5 N=32	2,016	17,941	18,344
心臓の先天奇形	平均値 中央値 N=1282	20.6 8.0 N=1282	79.3 18.0 N=46	22.6 8.0 N=1328	12.1 9.0 N=17	. . N=17	12.1 9.0 N=17	5,713	△ 48,563	△ 59,990
骨折	平均値 中央値 N=21906	43.8 26.0 N=21906	84.4 27.5 N=226	44.3 26.0 N=22132	62.4 54.0 N=103	91.7 68.0 N=27	68.5 54.0 N=130	1,569	29,189	37,978
頭蓋内損傷及び内臓の損傷	平均値 中央値 N=3352	31.1 14.0 N=3352	38.7 3.0 N=401	31.9 14.0 N=3753	96.6 52.0 N=24	61.1 11.0 N=8	87.8 48.0 N=32	1,549	101,443	86,575
中毒	平均値 中央値 N=2240	8.5 2.0 N=2240	36.8 2.0 N=64	9.3 2.0 N=2304	6.5 3.0 N=8	. . N=8	6.5 3.0 N=8	1,691		

注) 有効数1000未満の傷病, および傷病名に「その他の」が含まれる傷病を除く

\*= 1日あたり点数×平均在院日数の差(ただし「あり」の患者数10人未満の場合は推計せず)

表11. 手術のあった退院患者の有害事象有無別 退院時生存死亡別 在院日数

(1/2)

傷病中分類		有害事象なし			有害事象あり			1日あたり 点数	「有害事象あり」の場合 の点数増の推計*	
		退院時		計	退院時		計		生存	退院計
		生存	死亡		生存	死亡				
胃の悪性新生物	平均値	47.3	85.8	50.2	52.2	123.3	69.2	2,627	12,871	49,908
	中央値	40.0	63.0	41.0	43.5	66.0	47.0			
		N=4837	N=394	N=5231	N=64	N=20	N=84			
結腸の悪性新生物	平均値	41.2	99.5	44.7	59.2	29.8	53.9	2,559	46,056	23,540
	中央値	36.0	63.0	37.0	38.0	24.0	34.0			
		N=2824	N=182	N=3006	N=41	N=9	N=50			
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	平均値	50.6	89.9	53.4	55.7	38.3	49.9	2,461	12,549	△ 8,612
	中央値	44.0	79.0	45.0	49.0	23.0	46.0			
		N=1589	N=125	N=1714	N=18	N=9	N=27			
肝及び肝内胆管の悪性新生物	平均値	37.8	63.8	39.7	30.6	68.0	33.3	2,478	△ 17,840	△ 15,858
	中央値	28.0	51.0	29.0	24.0	68.0	27.5			
		N=1145	N=95	N=1240	N=13	N=1	N=14			
気管、気管支及び肺の悪性新生物	平均値	52.0	110.2	57.6	62.3	187.0	74.8	2,212		38,044
	中央値	41.0	77.0	43.0	30.0	187.0	47.0			
		N=1067	N=113	N=1180	N=9	N=1	N=10			
乳房の悪性新生物	平均値	32.8	136.4	34.5	39.8	17.0	37.5	2,495		7,486
	中央値	26.0	87.0	26.0	35.0	17.0	30.5			
		N=2433	N=39	N=2472	N=9	N=1	N=10			
子宮の悪性新生物	平均値	40.8	101.6	42.3	35.9	98.8	58.7	2,414		39,595
	中央値	23.0	83.0	23.0	23.0	90.0	36.0			
		N=1180	N=31	N=1211	N=7	N=4	N=11			
良性新生物及びその他の新生物	平均値	19.1	139.3	19.8	23.5	339.0	45.2	2,378	10,465	60,412
	中央値	11.0	84.0	11.0	16.0	156.0	17.5			
		N=23706	N=141	N=23847	N=95	N=7	N=102			
白内障	平均値	10.7	73.0	10.7	13.1	.	13.1	4,454	10,690	10,690
	中央値	8.0	73.0	8.0	9.0	.	9.0			
		N=13185	N=1	N=13186	N=14	.	N=14			
虚血性心疾患	平均値	26.6	48.7	27.4	26.9	63.2	38.4	2,619	786	28,811
	中央値	18.0	16.5	18.0	22.0	66.0	24.0			
		N=3337	N=128	N=3465	N=13	N=6	N=19			
痔核	平均値	14.7	.	14.7	15.4	.	15.4	1,518		
	中央値	13.0	.	13.0	13.0	.	13.0			
		N=2219	.	N=2219	N=7	.	N=7			
慢性副鼻腔炎	平均値	12.4	.	12.4	11.8	.	11.8	3,075		
	中央値	11.0	.	11.0	11.0	.	11.0			
		N=1306	.	N=1306	N=5	.	N=5			

注) 有効数1000未満の傷病, および傷病名に「その他の」が含まれる傷病を除く

\* = 1日あたり点数×平均在院日数の差 (ただし「あり」の患者数10人未満の場合は推計せず)